

鳥取・島根の建築

第45回建築士事務所全国大会では、横浜支部が8名の参加であり、各自、委員会との関係もあり、横浜支部としては独自のエキスカージョンを計画しませんでした。そこで日時連で紹介のあった建物を中心に訪れた建物の報告をさせていただきます。

10月13日（金）

① 米子市公会堂

村野藤吾 設計 1958年竣工。

音楽ホールは市民の願いで市民の寄付等で総工費の約1/3が集まり、村野も設計料を辞退したと伝えられています。



② 米子市立山陰歴史館（旧米子市役所）

佐藤功一 設計 1929年竣工。

鉄筋コンクリート造3階建て。

1982年まで市庁舎として使用され、市役所移転後山陰歴史館として使用されています。





③ 廻船問屋後藤家住宅

後藤家は江戸時代に海運業を営み、藩の米や鉄の回漕の特権を与えられた廻船問屋で後藤家住宅は平屋構造で一部二階建て土蔵造り。切妻屋根でこの地方の民家としてはただ一つの本瓦葺きになっています。



10月14日（土）

① 三徳山三佛寺投入堂

標高 900mの三徳山に境内を持ち、その奥院である投入堂は垂直に切り立った断崖絶壁のくぼみに建っており、「日本一危険な国宝」の異名を持ちます。

そこへは木の根や岩や鎖をよじ登る等の箇所があり、特に靴は滑らないものでないと入場許可されません。(わらじが販売されてました)



② 倉吉白壁土蔵群

倉吉の町は室町時代に打吹城の城下町として形成され、江戸時代には陣屋を中心に武家屋敷が建てられました。

町並みの景観は本町通りに展開する商家の主屋を主体とする景観と東西に流れる玉川沿いの景観に分かれ、ともに建物の屋根は石州瓦で葺かれています。



③ 倉吉市役所本庁舎

丹下健三と郷土ゆかりの建築家・岸田日出刀の共同設計。1956年竣工。

建物の構成は行政棟と議会棟を分けています。市民が自由に入出りできる2階建ての市民広場を持つこの建物は、2019年に DOCOMOMO Japan により「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定されました。

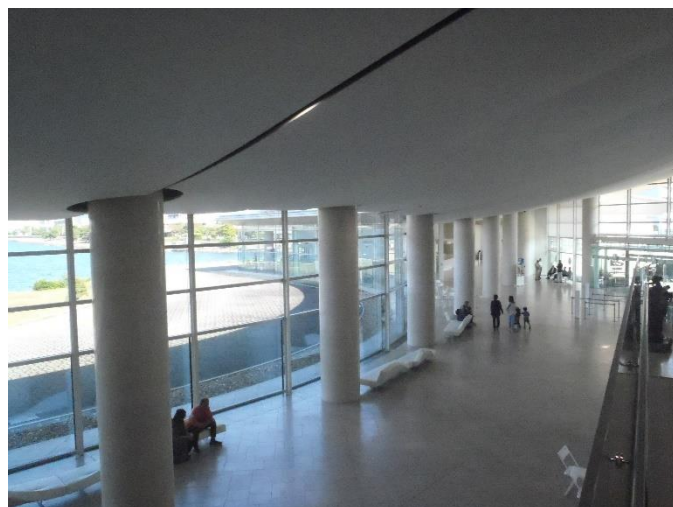


10月15日（日）

① 島根県立美術館

菊竹清訓 設計 1998年竣工

夕日が美しい宍道湖畔に建つ美術館として「日々刻々と変化する渚」をモチーフにデザインされています。建物の高さは背景の山並みを遮らないように低く抑えられ、対岸からは銀色に輝くチタンの大屋根を眺めることができます。



② 旧島根県立博物館

菊竹清訓 設計 1958年竣工

菊竹が島根県において初めて完成させた作品。水害の多い松江の風土に対応するため、展示室を3階に持ち上げ、大切な作品を水害から守る工夫がなされている。また自然採光、自然通風を実現するためルーバーウォールと呼ばれる回転式の縦格子を自ら考案しています。



③ 島根県庁舎

安田 臣 設計 1959年竣工

松江城三の丸跡地に建つ五代目の庁舎。建物は敷地の一番奥に配置され、市街地から城山への眺望を妨げないように計画され、さらに建物の高さを城山と同じ高さに抑えることで、松江城から宍道湖への眺めを遮らないように配慮されています。



④ 島根県立武道館

菊竹清訓 設計 1970 年竣工

昭和 45 年の大阪万博の年に完成。その 2 年前に完成した県立図書館と向かい合って建ち、2 階の構造を支える 45° に振られた壁柱は共通するデザインとなっています。

建物はシンメトリーでこれは武道を意識したものです。

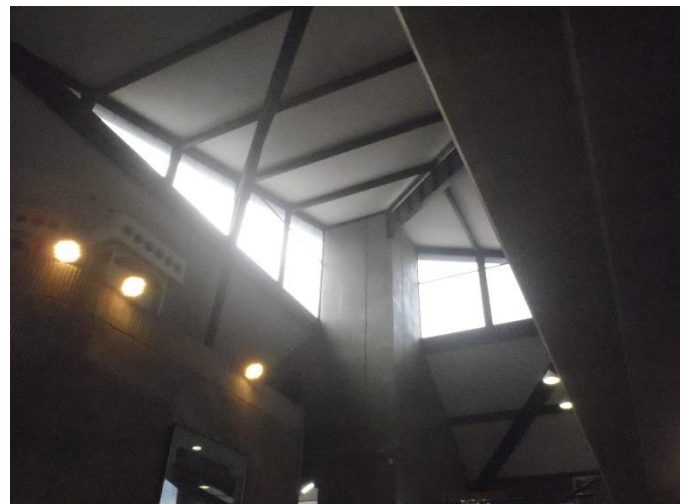


⑤ 島根県立図書館

菊竹清訓 設計 1968 年竣工

L 型の閲覧室が吹抜のホールを囲むように配置されている。菊竹はこの空間構成を「図書館のかた」と説明しています。

外観は堀川に沿ってジグザグに雁行し、45° に振られた壁柱は閲覧室から城山への眺望を遮らないように配慮されたものです。



⑥ 島根県民会館

安田 臣 設計 1968 年竣工。
県庁舎を設計した安田が建設省を退官し、独立後に設計した建物で、向かい合わせに建つ1959年竣工の島根県庁舎に合わせてコンクリート打放し仕上の列柱を外観にあらわし、一体的な景観を生み出しています。



⑦ 田部美術館

菊竹清訓 設計 1979 年竣工
松江城の北側、塩見縄手の一角に建つ第23代田部長右衛門が創設した私設美術館。コールドレン鋼で葺かれた屋根は島根の伝統「たたら製鉄」をイメージしたもの。内部は和風だが吹抜のロビーやスロープなどレーモンドのペイネ美術館を思わせられました。

